平成２９年度　タイ夏期英語研修　報告書

健康福祉学部看護学科１年　西川　眞生

８月２７日から９月２４日までタイの夏期英語研修に参加した。英語圏の研修がある中、タイでの英語学習を選ぶことによって学んだものは沢山ある。

まず、タイは母国語がタイ語であるため会話をする際は双方が母国語ではない英語でコミュニケーションをとらなくてはならない。お互いの英語スキルが似ている分自分から積極的に話しかけに行きやすかったと感じている。また、お互いの母国語を教えあう機会も多々あった。例えば、タイには食事の際「いただきます」や「ごちそうさまでした」という習慣がない。そのため、食前食後には一緒に食事の挨拶をしたり、逆に日常で使われるタイ語を教えてもらうことで交流をより深めることができた。

研修先であったチェンマイは、私たちが住む東京都はかなり違う雰囲気であった。電車が数分おきに来て満員電車で通勤をし、みんなが忙しそうにしている様子はあまり見かけていない。道には屋台が立ち並び、人々は自分の時間をゆっくりくつろいでいるように見受けられた。基本的になんでも安く購入することができるが気をつけなくてはならない点は、水や氷、食事、信号だ。水、氷、食事はお腹を壊す可能性がある為安全性の高い場所を選んだり地元の人に聞くこともあった。また、信号はあまり機能していないため注意が必要である。タイではバイクが主な交通手段であるため交通量が日本と比べると非常に多い。その中で車とバイクの間を縫って進まなくてはならないのは毎回大変だった。

課外授業や自由時間では様々な場所を訪れることができた。世界遺産や観光名所各地を回り象に乗ることもでき、行く機会がめったにない場所にまで行くことができてとても嬉しかった。一日フリーな日にはチェンマイ市内外のカフェやチェンマイ動物園などを訪れた。時にはチェンマイ大学の友達に案内をしてもらい、一緒にショッピングを楽しんだ。

今回の研修を通して、英語の勉強だけでなくそのほかの面でたくさんの学びを得ることができたと考える。住み慣れた日本から離れて言語も生活環境も全く異なる場所で過ごすというのは日本にいては体験できない、貴重な時間であった。長期留学を在学中にすることを視野に入れて今回の研修に参加したが、やはりその場所に慣れるためにはもっと長期間滞在したほうがよいと実感できさらなるモチベーションの向上につながった。看護学科に所属しているためこれから専門的な勉強も増えていくが、日本の患者さんはもちろん、海外から来た外国人の患者さんにも質の高い看護を提供できる看護師を目指して頑張っていきたい。

平成２９年度　タイ夏期英語研修　報告書

健康福祉学部看護学科１年　西川　眞生